機關說排擊時局大講演會

一、日　時　昭和十年四月十一日　自午後七時十分　至同十時十五分
二、會　場　福岡市因幡町　記念館
三、參加者　約六〇〇名（內女一〇名）
四、講演會の內容

1、開會の辭　福岡縣中部盟團代表　白石　義雄

美濃部學說の背後には共產黨が潛んではゐないかとさへ言はれてゐる。皇道精神の血が流れてゐる者は此の時起たずんば何時起つか、國民結束して起ち上れ

2、講　演　滿鐵東京支社　野田　蘭藏

美濃部學說には頑迷な政府も態度を明白にせなければならなくなつた。單に學說のみの論議でなく、機關說が個人的イデオロギーとして政治、經濟思潮を支配してゐるとの根本の

財團法人 協調會福岡出張所

原則に對する前哨戰である。私は大正十四年シベリヤにて四回投獄された間にソビエート共產主義者から種々教へられ、この体驗からして日本の國体は絕對に動かす事の出來ない原理がある事を感じた革命前に於ては勿論前進を自由にしてやると煽動したが革命後に於ける勞働者農民と言ふものは一片の麵包を得るにも十三時間も働かねばならぬ。耕作を濱山すると稅金が過大になり不平不滿で滿ちてゐる。革命に依つて皇帝の獨裁政治から勞働者の獨裁政治になつたに過ぎない。個人主義が社會主義に變つたのである。融合の出來ない個人個人を權力で纏める處の全体的個人主義では世界平和は保てない、觀念、人情から一つの信念を持つ國体觀念が日本の歷史である。自然部落を單位として統制された國家こそ平和た、皇道を實行化してこそ滿洲は平和である。我國は天照大御神の

財團法人 協調會福岡出張所